

《演奏会報告》

(平成 29 年度)

公演報告 2017

■ 池山 奈都子

◆ 2017年1月28日(土)

第11回白子高校創作ミュージカル
「大黒屋光太夫」

主催：三重県立白子高等学校

共催：名古屋音楽大学

会場：鈴鹿市民会館

指揮：桐生 智晃

歌唱指導：松下 雅人

演出指導：池山 奈都子

出演者：白子高等学校文化教養（吹奏楽）コース11期生

鹿島 梨央（名古屋音楽大学舞踊・演劇・ミュージカルコース4年生）

相星 利香（名古屋音楽大学大学院2年生）

演奏：白子高校吹奏楽部

◆ 2017年2月17日(金) ～ 20日(月)

名古屋市文化振興事業団2017年企画公演 名古屋市文化基金事業
オペレッタ「白馬亭にて」

主催：公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

会場：名古屋市青少年文化センター・アートピアホール

音楽監督・指揮：井村 誠貴

上演台本・訳詞・演出：池山 奈都子

振付：松村 一葉

管弦楽団：セントラル愛知交響楽団

◎オーディションで選出された出演者により6回の本番回数を持つ公演で、
今回で33年目を迎えた企画でもあり、私はこの企画公演に14回演出助
手として関わっていました。私はこの企画公演で舞台人として鍛えられ、

育てていただき、再び、こうして演出家として関わる事ができ、大変嬉しい現場となりました。

ウィーンでは有名なオペレッタ「白馬亭にて」は残念ながら日本では上演される機会もなく、なかなか資料が手に入らず、台本や歌詞を作成するあたりは苦労もしましたがオペレッタについて学ぶ良い機会になりましたし、稽古を含め、充実した時間となりました。

本番は素晴らしい舞台となり、出演者とスタッフに心から感謝！

◆2017年3月19日(日)

2017 聖霊中学高等学校 聖歌隊卒業コンサート
「100万回生きたねこ」

主催：聖霊中学高等学校 聖歌隊

会場：三井住友海上しらかわホール

演出指導：池山 奈都子

出演者：聖霊中学高等学校 聖歌隊（高校3年生）

◎高校生のミュージカルを指導する機会に恵まれた事（1月の白子高校も含めて）は大きな経験となり、高校生たちに演じる事や歌う事の喜び、楽しさ伝えたいと思いながら、練習に通いました。

◆2017年3月23日(木)

平成28年度 西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」公演
スプリングコンサート2017

主催：西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」

会場：あいれふホール

構成・演出：池山 奈都子

出演者：西日本オペラ協会会員

◆2017年4月23日(日)

児童合唱団かかみのキッズ

スプリングコンサート2017 25th anniversary

主催：児童合唱団かかみのキッズ
 会場：各務原市民会館
 指揮：深尾 明美
 構成・演出：池山 奈都子
 出演者：児童合唱団かかみのキッズ団員

◎この合唱団の指揮者、ピアニスト、パーカッションはいずれも名古屋音楽大学の卒業生で、児童合唱団でありながら、高い音楽性を探究し、創作し合える場となっている。

◆2017年7月29日(土)

同朋高等学校音楽科 50 周年記念演奏会

主催：同朋高等学校音楽科
 協力：名古屋音楽大学
 楽器協力：名古屋音楽大学
 会場：愛知県芸術劇場コンサートホール
 演出：池山 奈都子

◎私自身も同朋高等学校音楽科の卒業生である事からお声をかけていただいた演奏会の現場で、第二部のミュージカルのステージを中心に高校生らしい清々しいステージになるように演出をした舞台上、大盛況のうちに終了できました。
 またこうした機会に舞台作りの楽しさや厳しさ、舞台人としての基本的なマナーなどのお話もする事ができました。

◆2017年8月6日(日)

市民参加型オペラ「椿姫」

主催：久慈市文化会館
 会場：久慈市文化会館 大ホール
 芸術監督：永峰 高志
 指揮：阪 哲朗
 演出：松本 重孝

演出助手：池山 奈都子

管弦楽団：山形交響楽団

◆2017年8月18日(金)～20日(日)

児童合唱団かかみのキッズ

25周年記念演奏旅行

8月18日 トライアングルコンサート

会場：不二輸送機ホール 大ホール

出演：児童合唱団かかみのキッズ 山陽小野田少年少女合唱団

下関少年少女合唱隊

8月19・20日 コンサート

会場：都城市総合文化ホール

出演：児童合唱団かかみのキッズ 都城少年少女合唱団

◎4月にスプリングコンサートで上演したミュージカルを再演し、また、地元の少年少女合唱団と交流会、民泊を経験したり有意義な演奏旅行だったと思いました。

都城市総合文化ホールは素晴らしいコンサートホールでした。

◆2017年8月28日(月)～29日(火)

夏休みオペラ体験教室（小学4～6年生対象）

主催：ひろしまオペラ・音楽推進委員会（公益 広島市文化財団）

会場：JMS アステールプラザ 中ホール

講師：池山 奈都子

◎昨年に引き続きの依頼で、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を使ってオペラの作品を歌い、演ずる事を体験できるワークショップです。7月8月は小学生・中学生・高校生と一緒にすることが多く、子供たちの吸収力や想像力に驚かされる場面も多く、このワークショップの試演会は感動的でした。

◆2017年9月9日(土)・10日(日)

南日本音楽祭・鹿児島オペラ協会定期公演
「愛の妙薬」(日本語上演)

主催：南日本新聞社・鹿児島オペラ協会
会場：鹿児島県文化センター 宝山ホール
指揮：奥村 哲也
演出・訳詞：池山 奈都子
管弦楽団：鹿児島交響楽団
出演者：鹿児島オペラ協会会員

◎長年携わらせていただいている協会で、ベルカント・オペラに初挑戦となりました。喉をコントロールする技術を獲得する事がとても大切で勢いだけでは歌えないのがベルカント・オペラの難しさですが、出演者はベストを尽くし、真摯に作品に取り組み、素敵なお客を迎える事ができました。お客様にも楽しんでいただけたようです。

◆2017年10月25日(水)・26日(木)

平成29年度 西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」公演
オペラの魅力 Vol. 2 ～オペラ黄金時代の喜劇と悲劇～

主催：西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」
会場：あいれふホール
構成・演出・字幕訳詞：池山 奈都子
出演者：西日本オペラ協会会員

◎二日目は平日にもかかわらずマチネ公演でした。今年の3月公演で初めて平日マチネ公演に挑戦したが客席は満席。この成果によりソアレとマチネを兼ね備えた公演となりました。

東京ではオーケストラの演奏会もマチネが増えている時代。

高齢化社会や若者の演奏会離れなどなど、観客動員への対応も早急に開拓・進化させる必要がある事を9月の鹿児島オペラ協会の公演でも強く感じていましたが、内容の充実と観客動員は結び付いているものですから両方の底上げが課題とも言えます。

◆2017年12月17日(日)

子どものためのオペラシリーズV
「森は生きている」

主催：サラマンカホール
会場：サラマンカホール
指揮：倉知 竜也
演出・美術：池山 奈都子
出演者：名古屋オペラ協会会員

◎2016年4月に上演した「森は生きている」の再演ですが、ホールがサラマンカホールになり、ホールの特性を生かした演出に手直しをし、出演者も同じで共に作品をさらに深める事ができ、再演の大切さを改めて感じる現場となりました。

下記の公演は名古屋音楽大学の授業でもあり、公演でもありますので、出演者は学生ですが、充実した舞台でしたので記述させていただきました。

◇2017年12月14日(木)・15日(金)

カレッジオペラ「Cosi fan tutte」

会場：めいおんホール
指揮：森 雅史
演出・字幕訳詞：池山 奈都子

◇2017年12月21日(木)

第1回 めいおんミュージカル 「ごきげんな猫たち」

主催：名古屋音楽大学
会場：名古屋市芸術創造センター
演出・上演台本・美術：池山 奈都子

◎初めての学外公演でしたが満席の客席と学生たちのエネルギー溢れる舞台上で良い公演となりました。

オペラやミュージカルは個々の技術も必要ですが、チームワークが大変必要でもあります。コミュニケーション力や協調性、互いを気遣う思いやり、共演者へのリスペクト、出演者を支えてくれるスタッフへの感謝など、こうした舞台人として必要な心構えやマナーを大学生の間に経験でき、学べる事は本当に大切な機会です。名古屋音楽大学出身の出演者が一人でも多く、オペラやミュージカルの舞台上で活躍できるよう、充実した授業を通してお手伝いできればと思いますし、私の現場で共演できる事を願っています。

名古屋音楽大学管楽コース（トランペット）研究発表会V o l . 1

上田 仁

日時 2017年6月22日（木）18時30分開演

場所 めいおんホール

学部生10人がピアノ伴奏に合わせてソロ作品を演奏。1年生は初めての本番で緊張した学生もいたが、それぞれの研究の成果を堂々と発表した。当日は卒業生の演奏やプロのトランペッターのゲスト演奏もあり、充実した内容となった。

<ピアノ>佐々木杏子、<卒業生>野々垣綾乃、<名古屋フィル>松田優太

1年生

高野楓	ソロ ド コンクール	T.シャルリエ
中村依里香	コンクールの為の小品	A.シャイユー
柳楽円香	アンダンテとアレグロ	J.G.ロパルツ
森川春香	華麗なる幻想曲	J.B.アーバン

2年生

戸田紗矢香	協奏曲ハ長調より	T.アルビノーニ
西尾万優	プレリュード、アリアとスケルツォ	E.ポッリーノ
坂麻帆	コンサートエチュード	A.ゲディケ

3年生

水越結莉	ソナタ	J.ユボー
------	-----	-------

4年生

赤松歌織	イントラダ	O.ケッティング
西山須三玲	ソナタより	P.ヒンデミット

卒業生

野々垣綾乃	協奏曲ニ長調	G.トレッリ
-------	--------	--------

ゲスト演奏 名古屋フィルトランペット奏者
松田優太 独奏トランペットの為のパラブル

V.パーシケッティ

伴奏 佐々木杏子

名古屋音楽大学管楽コース（トランペット）研究発表会V o 1 . 2

日時 2017年7月25日（月）16：00開演

場所 D101 教室

学部生10名が参加。昼過ぎまで。シエナ・ウインド・オーケストラの学科公開講座があり、あわただしいスケジュールの中開催。実技試験の直前という事でそれぞれ試験で演奏する課題を演奏した。緊張感のある中でどれだけリラックスして本来の力を出せるか、というテーマを追求した。

演奏曲目

音階課題

G.コプラッシュ 厳選された60の練習曲より

T.シャリエ 高度な練習曲集より

A.ゲディケ コンサートエチュード

E.ポッリーノ 前奏曲、アリアとスケルツォ

など

名古屋音楽大学管楽コース（トランペット）新春研究発表会

日時 2018年1月9日（火）18時開演

場所 DO ホール（名古屋音楽大学内）

1～3年生は学年末試験。4年生は卒業試験直前の発表を行った。ゲストとして本校の講師も演奏し、教師と生徒という垣根を超えた交流を持つことが出来た。

1年

高野楓	ルスティークス	E.ボッサ	岩塚麻由
中村依里香	カンタービレとスケルツェット	P.ゴーベール	森田梓月
森川春香	演奏会用小品第1番	W.ブラント	成瀬泉水
柳楽円香	ファンタジー	C.サン＝サーンス	渥美可菜子

2年

戸田紗矢香	アンダンテとアレグロ	G.バレイ	玉寄杏奈
西尾万優	スラブ幻想曲	C.ヘーネ	植田結衣
坂麻帆	コンクールの為の小品	A.シャイユール	高坂佳奈

3年

水越結莉	イントラダー	A.オネゲル	田畑孝高
------	--------	--------	------

4年

赤松歌織	ソナタより第1楽章	E.イウエイゼン	加藤大和
西山須三玲	協奏曲より第1、2楽章	R.プラネル	塚本梨月

ゲスト

井上圭	2本のトランペットのための		
／松田優太	「ダイアログ」	E.ボッサ	
上田仁	トランペットとトロンボーンのための		
／森岡佐和	「ファンダンゴ」	J.トゥリン	植田結衣
井上圭	協奏曲	A.アルチュニアン	田畑孝高

演奏活動報告

■ 大岡 訓子

「第 47 回 名古屋管楽五重奏団演奏会」

2017 年 4 月 28 日(金) 開演:19:00～ 電気文化会館

主催: 名古屋管楽五重奏団

L. ファランク 六重奏曲 op. 40 (木管六重奏、室内楽)

共演者: フルート 竹内 梓
 オーボエ 稲吉 紗香
 クラリネット 山川 真喜子
 ファゴット 中山 優希
 ホルン 高橋 由佳

フランス女性作曲家の作品で、和声感の中に エチュード要素を含む作風となっており、木管六重奏 を勉強でき、室内楽の演奏を楽しむことができた。

「9th ピアノコンサート エクセレント」

2017 年 9 月 17 日(日) 開演:13:00～ 電気文化会館

F. ショパン バラード 第 1 番 ト短調 op. 23

毎年 卒業生の演奏会を主催し、来年度は 第 10 回目となる。
 卒業生と共に ピアノ演奏を続け、集客数も増え、華やかな演奏会となっている。

「作曲・音楽クリエーションコース× ピアノ演奏家コース

Collaboration Concert」

2017 年 10 月 26 日(木) 開演:19:00～ 熱田文化小劇場

松波 匠太郎 ピアノのための 3つの小品 (新曲初演)

作曲・音楽クリエーションコースとピアノ演奏家コースの コラボレーションコンサート、新作初演を行った。

「3つの作品」は、バッハの平均律 第I巻 より テーマが歌われていく。2曲目は エコーのエチュードとなっている。

素晴らしいピアノ作品である。

演奏会報告

■ 小櫻 秀樹

日 時 2018年2月16日

場 所 イスタンブール、ミマール・スィナン芸術大学(Mimar Sinan University)

小櫻秀樹の音楽

2018年2月にスウェーデン、STIM (Svensk Musik)からの助成金でアンカラ(Bilkent University)、イスタンブール(Mimar Sinan University)を訪問した。Bilkent University はゲストコンポーザーとして、また Mimar Sinan University では 20 世紀前半にアタチュルク (Mustafa Kemal Atatürk 1881-1938) の指導したトルコの近代化に呼応して、西洋芸術音楽の語法を獲得した作曲家たち「トルコ 5 人組」の世代から、現代に生きる作曲家に至る系譜を辿るリサーチを行った。同大学主催で「小櫻秀樹の音楽」のコンサートが企画された。



HIDEKI KOZAKURA

Hideki Kozakura

Seto doğumlu Japon besteci Hideki Kozakura, uzun yıllar Stockholm ve Berlin’de yaşadıkdan sonra profesyonel yaşamını 2009’dan bu yana piyanist ve besteci olarak Nagoya’da sürdürmektedir. Tokyo Güzel Sanatlar ve Müzik Üniversitesi’nde Teruyuki Noda ve Akira Miyoshi’nin gözetiminde tamamladığı lisans ve yüksek lisans eğitimlerinin ardından, Japon Hükümeti’nin Denişaşırı Programı’nın desteğiyle 1999 yılında New York’ta Tristan Murail ile çalıştı. Kompozisyon alanındaki ikinci yüksek lisans derecesini Stockholm Kraliyet Müzik Koleji’nde Pär Lindgren, Bent Sørensen ve Örjan Sandred’le (elektronik müzik) çalışarak aldı. 1.lik ödülünün verilmediği 1997 tarihli ilk Takemitsu Kompozisyon Yarışması’nda 2.lik ödülüne değer bulunmasından bu yana yapıtları Japonya, Avrupa ve Kuzey Amerika’nın önde gelen müzisyenleri ve orkestraları tarafından seslendirilmektedir. Besteci ayrıca Japon Senfonik Ödülü, Nagoya Kültürel Destek Ödülü ile Berlin Kültür ve Bilim Ödülü’ne değer bulunmuş, Nomura Vakfı’nın ve Kültür Çalışmaları Ajansı’nın İcra Sanatları Ödülü başlıklı burs ve araştırma desteklerini almış, Japonya’daki bazı piyano yarışmalarında ödüller kazanmıştır.

Müzik çalışmalarına beş yaşında piyano, yedi yaşında keman çalışarak başlayan bestecinin müziği Beethoven, Schubert, Brahms gibi klasik ve romantik dönem bestecilerinin, *kabuki* dans tiyatrosu ve *kyogen* (geleneksel kısa, komik drama) gibi geleneksel Japon sahne sanatlarının ve Alman elektropop müziği ile tekno müziğinin, özellikle minimal teknonun etkisindedir. Yurtdışından davet edilen müzisyenleri içeren projelerde aktif görev alan besteci, 2005 yılı sonunda meslektaşı Jummei Suzuki ile birlikte “Nuovo Virtuoso” adlı, gelecek vaat eden genç yorumcu ve bestecileri desteklemeye adanmış birliğin besteciler birimini, 2009 yılında ise Tokyolu besteci Haruyuki Suzuki ile birlikte, Japonya ve Avrupa’da uluslararası etkinlikler düzenlemeyi hedefleyen “Company Bene”yi kurmuştur. Çeşitli üniversite ve kurumlarda seminerler veren, ustalık sınıflarında eğitimci olarak bulunan bestecinin yapıtları BIS ve Media Artes etiketleriyle yayımlanmıştır. Seslendirmeleri genellikle Japonya, İsveç, Almanya, İspanya ve ABD’de gerçekleşen besteci halen Nagoya Müzik Koleji’nde öğretim üyesidir.

**Mimar Sinan Güzel Sanatlar Üniversitesi
İstanbul Devlet Konservatuvarı**

16 Şubat 2018, 14:00 – Oda no. 11

Barcelona Duo, flüt ve piyano için (2009/2016)

Aslıhan And, flüt

Deniz Erden, piyano

Dvé sovy (İki Baykuş), solo soprano için (2009)

Ayşe Ece Güneşen, mezzo soprano

Luigi Boccherini bin ich! (Ben Luigi Boccherini!),

solo keman için (2017)

Özcan Ulucan, keman



STIM: //

Svenska Tonsättares Internationella Musikbyrå

演奏会報告（フェスティバルオーケストラ）

■ 後藤 龍伸

日時 2017年11月1日 開演：18:00

場所 名古屋音楽大学成徳館12階ホール

元々、平日の夜ではなく、祝日か休日の午後にファミリー・コンサートとして小さい子供からお年寄りまで楽しんでいただけるような演奏会を想定していた。

チラシには載せていないが、私自身が無償で編曲したラフマニノフのピアノ曲「音の絵」から第7番のオーケストラ版を最初に華やかに演奏。

プログラムはロシア・旧ソ連の作曲家の作品を中心に、カバレフスキーの有名な「ギャロップ」（運動会でよく耳にする曲）を含む組曲「道化師」の抜粋や、「剣の舞」で有名なハチャトゥリアンのバレエ曲「ガイーヌ」の抜粋を取り上げた。他には、朗読に卒業生の山本祐歌さんにボランティア参加していただき、プロコフィエフの音楽物語「ピーターと狼」を演奏した。

さらに通常のコンサートではなかなか聴くことのできない、学生（トニー・アーム）が作曲したオーケストラ作品、また私がみずからヴァイオリンを弾きリードした、ショスタコーヴィチの「弦楽八重奏のための二つの小品」（弦楽合奏版）や、ストラヴィンスキーの珍しい管楽八重奏曲がこの日に演奏された。

名古屋音楽大学 第5回めいおん音楽祭

フェスティバル オーケストラ

2017.11.1(水) 開演 18:00 (開場 17:30)

名古屋音楽大学成徳館 12階ホール 入場無料



S. ラフマニノフ
絵画的練習曲「音の絵」op.33 より 第7曲

D. カバレフスキー
組曲「道化師」より
2.ギャロップ
6.間奏曲
7.叙情的小情景
9.スケルツォ
10.エビローグ

D. ショスタコーヴィチ
弦楽八重奏のための二つの小品 作品 11

S. プロコフィエフ
交響的物語「ピーターと狼」

I. ストラヴィンスキー
管楽八重奏曲

UHM SECHUN TONY
Eksistens

A. ハチャトゥリアン
バレエ音楽「ガイーヌより」
剣の舞、子守唄、バラの乙女たちの踊り、レズギンカ

お問い合わせ先 めいおん音楽祭実行委員会 TEL052-411 1593



指揮 後藤龍伸

演奏：名古屋音楽大学オーケストラ

演奏会報告

■ 佐藤 恵子

2017年5月26日(金) 6:30 開演 ザ・コンサートホール (電気文化会館)

愛知ロシア音楽研究会第8回演奏会

「ロシア革命 100年～その時あなたは」

<ソロ>

ルリエ作曲 「8つのロシアの子供の情景」より

1. 陶器の羊飼いと羊の群れ
5. お化け
8. 子供の歌

2018年2月10日(土) 14:00 開演 汐留ベヒシュタイン・SS ザール

「佐々木成子先生を忍んで」 In memory of Sadako Sasaki

<伴奏>

メンデルスゾーン作曲 二重唱(橋爪圭子・笥聰子)

私は愛を込めたかった op.63-1

渡り鳥の別れの歌 op.63-2

挨拶 op.63-3

ブラームス作曲 (笥聰子)

メロディーのように op.105-1

わたしのまどろみはしだいに浅くなり op.105-2

セレナーデ op.106-1

プフィッツナー作曲 (橋爪圭子)

わたしのまどろみはしだいに浅くなり op.2-6

シュトラウス作曲

万霊節 op.10-8

セレナーデ op.17-2

川口耕平作曲 河野進詩 (橋爪圭子)

よかった

中田喜直作曲 宮本正清詩

未知の扉

中田喜直作曲 清水みのる詩

鳩笛の唄

別宮貞雄作曲 加藤周一詩

さくら横ちょう

別宮貞夫作曲 大木敦夫詩 (笈聰子)

歌曲集「淡彩抄」

I. 泡 II. 蛍 III. 入墨子 (いれぼくろ) IV. 涼雨 V. 別後

VI. 燈 VII. 天の川 VIII. 青蜜柑 IX. 鷺 X. 春近き日に

シューマン作曲 二重唱 (橋爪圭子・笈聰子)

「スペインの恋の歌より」わたしを花で覆ってください op.138-4

幸せ op.79-16

ロシア音楽研究をテーマに毎年開催している演奏会で始めてアヴェンギャルドの作曲家「A.V.ルリエ(1892~1966)」に取り組みました。新古典主義的な作品で左右の調性が違う作品もあり、新鮮でした。

1987年名古屋音楽大学大学院創設の折にはご尽力下さり、それと期を同じくして本学でも教鞭をとられていた佐々木成子先生が2017年5月に亡くなり、先生への感謝の気持ちを何かの形で実現できればと考えていたところ、先生の甥に当たられる戸塚良一氏がSS基金を開設され、ご好意で「汐留ベヒシュタイン・SS ザール」を使わせて頂き演奏会を開催しました。佐々木先生の教えの尊さを実感する機会となりました。

演奏会報告

■ 清水 皇樹

日時 2017年8月19日

場所 名古屋・Hitomi hall

シューベルト：「美しき水車小屋の娘」テノールリサイタル

テノール：荒井嗣雄

ピアノ：清水皇樹

シューベルトの三大歌曲集の一つ「美しき水車小屋の娘」の研究、伴奏の演奏を行った。本学では、「西洋音楽史」の授業を受けもっており、ドイツリートはロマン派の重要な事項であり、必ず触れる。このシューベルトの「美しき水車小屋の娘」、シューマンの「詩人の恋」等は学生達にも鑑賞で聴かせるため、今回自分が「美しき水車小屋の娘」全曲を伴奏、研究することによって、自らの授業に、また今後の「伴奏法」の授業に役立っていくものと思っている。

ソロと同様、ドイツリートの素晴らしさに触れ、今後もこの分野での研究を続けて、また発表していきたい。

2017年度 演奏報告書

■ 高藤 摩紀

2017年度に行った演奏活動のうち主だったものを報告いたします。

2017年4月8日(土) 14:00 京都アスニー アスニーホール

2台のマリンバとピアノによるコンサート

演奏曲目

Franz Schubert	Arpeggione Sonata	
Pablo de Sarasate	Navarra	他

2017年10月23日((月)~25日(水)

浜松市楽器博物館 CD レコーディング

収録曲目

Ricardo Gallardo	Renaissance Jegog Dance
Raul Tudon	The 7 Cycles of Vynth Thar

2017年10月31日(火) 18:00 めいおんホール

Tambuco x Meion

演奏曲目

小櫻秀樹	Four or Five? (世界初演)
Ricardo Gallardo	Bamboo Song (世界初演)
Ricardo Gallardo	Renaissance Jegog Dance (世界初演)
Ricardo Gallardo	Café Jegog
Raul Tudon	The 7 Cycles of Vynth Thar
Steve Reich	Nagoya Marimbas

他

2017年11月3日(金) 15:00 長久手市文化の家 森のホール

Tambuco Percussion Ensemble Concert

(ライブ CD 録音あり)

演奏曲目

小櫻秀樹	Four or Five?
Ricardo Gallardo	Bamboo Song
Ricardo Gallardo	Renaissance Jegog Dance
Ricardo Gallardo	Café Jegog
Raul Tudon	The 7 Cycles of Vynth Thar

今年度は、Tambuco をめいおん音楽祭にお招きし、ピアノコース、声楽コース、打楽コースの学生たちも Tambuco と共演させていただきました。

作曲コースの小櫻秀樹教授が Tambuco の為にマリンバクインテットを作曲され、Tambuco と私の5人で世界初演いたしました。来日されてからのリハーサル時間が少ない中、より完成度の高い演奏をするため、5人全員が Click Track を聴きながら演奏するという方法をとりました。

また、Gallardo 氏が、メキシコ大地震の中スカルサクラのために作曲された、犠牲になった方々の鎮魂を込めた “Renaissance Jegog Dance” を世界初演、CD 収録をはじめ、声楽コース生と Tambuco による “Bamboo Song” など、Tambuco とは3曲世界初演をしました。

以上

演奏会報告

■ 竹内 梓

2017年4月8日(土)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 みどりの会 第24回 演奏会
- 演奏研究テーマ みどりの会
- 場 所 しらかわホール
- 目的及び内容

目 的 定期演奏会
 内 容 女性コーラスによる演奏会
 出演者 女性コーラス みどりの会
 指揮 荻野砂和子
 ピアノ 伊與木慶子
 フルート 竹内 梓

- ・日本民謡による「四つの女性合唱曲」より 手まり歌 間宮芳生
- ・その他

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

1963年に、混声合唱団グリーン・エコーの女性を中心に発足した合唱団のみどりの会の定期演奏会での賛助出演である。女性だけのコーラスの中に、打楽器とフルートのオブリガートが加わった曲で、日本民謡のメロディーを題材にして、フルートパートは日本の笛をイメージさせるものであった。大勢のコーラスメンバーの中でも、フルートの音は埋もれることなく良く透るように作られており、ヴォーカルとの音程もほとんど違和感なく、とても良い雰囲気の中で演奏することができた。

2017年4月28日(金)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 名古屋管楽五重奏団
- 演奏研究テーマ 第47回 名古屋管楽五重奏団演奏会
- 場 所 電気文化会館 ザコンサートホール
- 目的及び内容

目 的	定期演奏会	
内 容	フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット、ピアノによる演奏	
出演者	フルート	竹内 梓
	オーボエ	稲吉沙香
	クラリネット	山川眞喜子
	ホルン	高橋由佳
	ファゴット	中山優希
	ピアノ	大岡訓子

・小さな音楽の捧げもの	ニーノ ロータ
・五重奏曲 作品 7 9	アウグスト クルークハルト
・6つのバガテル	ジョルジュ リゲティ
・カルメン組曲	ジョルジュ ビゼー
・六重奏曲 八短調 作品 4 0	ルイーゼ ファランク

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

第47回開催の定期演奏会である。プログラムの前半は様々な時代に特徴ある作風で活躍した作曲家の作品を演奏し、後半は、いつものように六重奏曲を演奏した。女流作曲家であるファランクの作品らしく、柔らかで、聞き易いメロディーは、まさに古典派音楽とロマン派音楽の器楽奏法を結び付けた音楽であり、多くの聴衆に快く響いたのではないかと思う。



2017年5月23日(火)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 楽友会
- 演奏研究テーマ 楽友会サロンコンサート
- 場 所 名古屋ビルヂング3 3階 オルクドールサロン
- 目的及び内容

目 的 レセプションコンサート

内 容 フルート、ヴァイオリン、チェロ、ピアノ、ドラムスによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓
 ヴァイオリン 木全利行
 チェロ 小川剛一郎
 ピアノ 佐々木惇利子
 ドラムス 長谷川裕祐

・フルートとジャズピアノトリオのための第1組曲より

アイランディズ、ジャバネイズ C.ポリング

・ジャズ組曲より 第2ワルツ、第1ダンス D.シオスタコーヴィチ

・ボレロ M.ラヴェル

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

私の所属している日本室内楽アカデミーの後援会である楽友会の、年度初めの定例総会の中でのコンサートである。会場は、J R名古屋駅前にある名古屋ビルヂング最上階の3 3階にある、多目的ホールのオルクドールサロンであった。そこにはスタインウェイのグランドピアノが常設されている。演奏曲目は、小編成のアンサンブルに編曲された多ジャンルの作品を演奏した。眺望の素晴らしい会場は、音響効果も適度にあり、とても気持ちよく演奏できた。

2017年6月5日(月)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 中部電力株式会社
- 演奏研究テーマ コンサート
- 場 所 ウエスティナゴヤキャッスル
- 目的及び内容

目 的 レセプションコンサート

内 容	フルート、ヴァイオリン、チェロ、ピアノ、ドラムスによる演奏	
出演者	フルート	竹内 梓
	ヴァイオリン	松実健太
	チェロ	小川剛一郎
	ピアノ	佐々木侏利子
	ドラムス	長谷川裕祐

- ・ニルンベルクのマイスタージンガーより 前奏曲 R.ワーグナー
- ・その他

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

中部電力株式会社の退職者のための永年勤続表彰パーティーでの、日本室内楽アカデミーメンバーによるレセプションコンサートである。小編成のアンサンブル用に編曲された作品を演奏した。「ニルンベルクのマイスタージンガー前奏曲」では、2nd ヴァイオリンのパートを受け持ったため、音域が低く、他パートとの適切な音量バランスを保のがむつかしく、さらに、細かい動きのパッセージが多く、フルートでは対応に限界を感じての演奏であった。やはり、フルートは弦楽器とのアンサンブルでは、高音域のメロディーを受け持つのに向いている楽器のようだ。

2017年7月27日(木)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 日本室内楽アカデミー
- 演奏研究テーマ 音楽の玉手箱 No.3 躍動のコンサート
- 場 所 電気文化会館 ザコンサートホール
- 目的及び内容

目 的	オーディション合格者の披露演奏	
内 容	フルート、チェロ、ピアノ、ドラムスによる演奏	
出演者	フルート	竹内 梓
	ヴァイオリン	松実健太
	チェロ	小川剛一郎
	ピアノ	佐々木侏利子
	ドラムス	長谷川裕祐

- ・交響曲第5番 八短調 作品67「運命」より 第4楽章 L.v.ベートーヴェン/フンメル

・ニルンベルクのマイスタージンガーより 前奏曲

R.ワーグナー

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

日本室内楽アカデミー主催の、18才未満を対象とした出演者選抜オーディション合格の若手演奏者の皆さんと、アカデミーメンバーによる演奏会である。オーディション合格者は、すでにコンクール上位入賞歴のある方ばかりで、演奏のレベルは高かった。アカデミーメンバーは、今後益々活躍されるであろう若手演奏者への期待と、はなむけの気持ちを込めて演奏をした。

2017年10月4日(水)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 中部電力株式会社
- 演奏研究テーマ コンサート
- 場 所 名古屋東急ホテル
- 目的及び内容

目 的 レセプションコンサート

内 容 フルート、チェロ、ピアノ、ドラムスによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓
 チェロ 小川剛一郎
 ピアノ 佐々木惇利子
 ドラムス 長谷川裕祐

- | | |
|---|------------|
| ・ノクターン | F.ショパン |
| ・仮面舞踏会より ワルツ | I.ハチャトゥリアン |
| ・フルートとジャズピアノトリオのための第1組曲より
アイランディズ、ジャパネイズ | C.ボリング |
| ・ボレロ | M.ラヴェル |

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

中部電力株式会社の、永年勤続者表彰パーティーでの日本室内楽アカデミーメンバーによるレセプションコンサートである。プログラムは、小編成用に編曲された作品で、各パートの重要度が高く、程よい緊張でのアンサンブルを味わうことができ、終演後も快い達成感の余韻にひたることのできるコンサートであった。

2017年10月14日(土)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 半田市教育委員会 生涯学習課
- 演奏研究テーマ フルートアンサンブル「虹色の笛」コンサート
- 場 所 半田市 雁宿ホール市民ロビー
- 目的及び内容

目 的 ロビーコンサート

内 容 フルートアンサンブルによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓、小島賢司、三村幸宏、河合夕起子、杉江厚美、
杉本 悠、増岡恵美、森 由希子、山田敦子
司会 小池全子

- ・フルート四重奏曲 八長調 k.285b 第1楽章 W.A.モーツァルト
- ・愛の挨拶 E.エルガー
- ・その他

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

私のフルートの生徒で結成したフルートアンサンブル「虹色の笛」の、半田市にある雁宿ホールロビーでのコンサートである。仮設のステージのため、聴衆の反応がよく伝わってきて、会場全体が一体感のある演奏会であった。演奏曲目のジャンルは、さまざまであったが、耳馴染みの曲や、鳴り物入りの曲など変化のあるプログラムに、来場の皆さんは十分楽しんでいただけたようだ。

2017年10月30日(月)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 名古屋音楽大学 第5回 めいおん音楽祭実行委員会
- 演奏研究テーマ バロック音楽をあなたに part II
- 場 所 名古屋音楽大学内 Do プラザ閲覧ホール Do
- 目的及び内容

目 的 バロック音楽の演奏

内 容 フルートとチェンバロによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓
チェンバロ 鈴木美香

- ・フルートとチェンバロのためのソナタ 二短調 D.パーセル
- ・フルートとチェンバロのためのソナタ ホ短調 J.M.ルクレール
- ・フルートとチェンバロのためのソナタ 口短調 BWV 1 0 3 0 J.S.バッハ

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

名古屋音楽大学第5回めいおん音楽祭参加での演奏である。一昨年、合奏形態で開催した「バロック音楽をあなたに」を、今回は私の独奏で、part IIとして開催した。演奏スタイルについては、当時の演奏習慣や、様式をふまえつつ、モダンな形式で行った。久しぶりのチェンバロを使用しての本格的なバロック音楽の演奏会は、私にとっても快く、充実した有意義な企画であった。



2017年11月16日(木)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 名古屋音楽大学 管楽コース
- 演奏研究テーマ 第7回 定期演奏会
- 場 所 名古屋音楽大学 めいおんホール
- 目的及び内容
 - 目 的 定期演奏会
 - 内 容 フルートオーケストラとフルートアンサンブルによる演奏

出演者 フルート 名古屋音楽大学フルート専攻生
指揮 竹内 梓

- ・交響曲 第40番k550より 第1楽章 W.A.モーツァルト
- ・交響的スケルツォ「魔法使いの弟子」 P.デュカス
- ・その他

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

名古屋音楽大学管楽コースフルート専攻生による、毎年恒例の管楽合奏の定期演奏会である。今回は、全曲フルートオーケストラでのプログラムではなく、数人のアンサンブル曲の演奏も行った。そのため、練習時間も各グループで有効に使用することができたようだ。当日の演奏会には、卒業生も来場し、毎年演奏のレベルが上がっているようだとの好評をいただいた。学生も、フルート科の1年間の総まとめのような気持ちで臨んでおり、目標に向かって一丸となれ、とても良い機会であった。



2017年12月2日(土)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 日本室内楽アカデミー
- 演奏研究テーマ 佐々木惇利子 & N響メンバーシリーズ No. 18
生誕250周年に向けて ベートーヴェン・ツィクルス I
- 場 所 しらかわホール

○目的及び内容

目 的 シリーズ演奏

内 容 フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノ、ティンパニーによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓

ヴァイオリン 木全利行

ヴィオラ 飛澤浩人

チェロ 小川剛一郎

ピアノ 佐々木惇利子、海老原優里

ティンパニー 加藤史也

・交響曲 第6番 作品68「田園」より 第1楽章 L.v.ベートーヴェン/フンメル

・交響曲 第5番 作品67「運命」より 第4楽章 L.v.ベートーヴェン/フンメル

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

佐々木惇利子 & N響メンバーシリーズ No. 18での生誕250年に向けてベートーヴェン・ツィクルスIの演奏である。ベートーヴェンのオリジナル室内楽作品と、同時代の作曲家による彼の交響曲を、小編成のアンサンブルに編曲した作品を演奏した。私の参加した「運命」と「田園」では、フルートパートはオーケストラでの演奏とかなり違って、高音が多用されている。それは、当時の楽器の特性を考慮してのアレンジではないかと察した。そのため現代の金属製のフルートでは、高低の各音域での他パートとの音量バランスに神経を使った。しかし、演奏効果については、少人数のアンサンブルでも十分あったと思う。



2017年12月20日(水)

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 モーニングコンサート実行委員会 武豊町教育委員会
- 演奏研究テーマ フルートアンサンブル「虹色の笛」コンサート
- 場 所 武豊町町民会館 ゆめたろうプラザ 響きホール
- 目的及び内容

目 的 クリスマスコンサート

内 容 フルートアンサンブルによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓、小島賢司、三村幸宏、河合夕起子、杉江厚美、
杉本 悠、増岡恵美、森 由希子、山田敦子

司会 小池全子

- ・フルート四重奏曲 八長調 k. 2 8 5 b 第1楽章 W. A. モーツァルト
- ・愛の挨拶 E. エルガー
- ・威風堂々 //
- ・シンコペーテッドクロック L. アンダーソン
- ・踊る子猫 //
- ・その他

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

私のフルートの生徒で結成したフルートアンサンブル「虹色の笛」の、武豊町のゆめたろうプラザ響きホールでのモーニングコンサートである。クリスマスコンサートにふさわしい曲、耳馴染みのある曲、クラシックの名曲など、さまざまなジャンルのフルートアンサンブル用に編曲された作品を、1時間ほど演奏した。平日の午前中にもかかわらず満席の聴衆には、独奏とはまた違うピッコロ、アルトフルート、バスフルートなどの特殊管を使用した幅の広い音域や音色での演奏、さらに、独唱を加えたアンコールは大変好評で、とても印象に残ったようだ。

2017 年度研究報告

■ 露木 薫

2017 年度は英国の人気作曲家フィリップ・スパーク氏の Brass Band(英国式金管バンド) 作品の演奏研究と指揮法研究を行った。

① フィリップ・スパーク氏の Brass Band 作品の演奏研究

11 月 4 日(土) 11 時より博聞館 4 階めいおんホールにて Meion British Brass Autumn concert ～珠玉の Philip Sparke プログラム～ と題し、名古屋音楽大学第 5 回めいおん音楽祭の一環として演奏会を開催した。指揮：露木薫 演奏：Meion British Brass プログラムは下記のとおり、

Orient Express (オリエント急行)

The saga of Haakon the good (ハーコン善王の伝説)

- I. The future king II. The journey to Trondheim III. The missionary king
- IV. The battle of Rastarkalv

The year of Dragon (ドラゴンの年)

- I. Toccata II. Interlude III. Finale

アンコール：Royal Salute (ロイヤル サリュート)

Meion British Brass は名古屋音楽大学在校生及び卒業生で 2016 年 5 月に結成した活動 2 年目の Brass Band であり、金管楽器と打楽器のみで構成される合奏形態の演奏研究と個々の演奏技術や表現力の向上を目的としている。この演奏会は 2017 年 4 月からの練習成果の発表という位置付けとして開催した。Brass Band (英国式金管バンド) の為のオリジナル作品として代表的なフィリップ・スパーク氏の 4 曲を披露する機会となった。特に The Saga of Haakon the Good と The year of Dragon は高い技術力と豊かな表現力が求められる曲であり、Band としての表現力の向上が感じられる演奏をする事が出来た。その他に Portrait of a City の楽譜も購入したが、この曲については来年度に開催する演奏会のプログラムに組み込む予定。

② 指揮法研究

DVD3 点を購入し、自分自身の吹奏楽の授業での指導力向上、また来年度の担当予定授業の準備為の研究を行った。

購入した DVD は以下の 3 点、

音楽指導者のための指揮法（監修・出演：保科洋）

秋山和慶のオーケストラ入門 Vol.1 オーケストラの楽器

秋山和慶のオーケストラ入門 Vol.2 オーケストラと指揮者の役割

尚、この 3 点の DVD は来年度の担当授業内（吹奏楽指揮法・吹奏楽指導実習など）でも活用する予定である。

演奏活動・研究活動の報告

■ 中川 朋子

2017年2月14日(火) 開演：11:00 場所：青葉女子学園（仙台市若林区）

慰問コンサート チェロとのデュオ及びピアノソロ

出演 チェロ：水谷川優子氏 ピアノ：中川朋子

プログラム

A. ルービンシュタイン：メロディー

ファリャ：スペイン民謡組曲

近衛秀磨：ちんちん千鳥 水谷川忠俊編曲

童謡：ふるさと

リスト：愛の夢第3番 他。

10年以上、水谷川優子氏と続けているボランティア活動の一環。

今後も時間の許す限り、施設訪問の慰問コンサートを行いたい。

2017年3月9日(木) 開演：18:30 場所：アートピアホール（名古屋市中区栄）

NCM 管弦楽団第10回定期演奏会

主催：NCM 管弦楽団

出演

NCM 管弦楽団 指揮：田久保裕一氏 ピアノ：佐藤恵子氏 中川朋子

プログラム

J. ブラームス：大学祝典序曲 作品80

W.A. モーツァルト：2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K. 365

第1ピアノ・佐藤恵子氏 第2ピアノ・中川朋子

F. シューベルト：交響曲第7番 ロ短調「未完成」D. 759

D. ショスタコーヴィチ：交響曲第9番 変ホ長調 作品70

NCM 管弦楽団第10回の節目となる今回、名古屋音楽大学学長の佐藤恵子氏とモーツァルト

の2台のピアノのための協奏曲 K. 365 を演奏した。

1775年~1777年にザルツブルクで作曲されたこの作品は、ピアノパートがほぼ対等で、同じ動きをしながら進行する箇所が多く、互いのピアニストの緊密な連携が要求される。おかげ様で、お客様にご好評を頂き、記念行事の大役の一端を無事に果たす事が出来た。

2017年6月30日(金) 開演：19:00 場所：ヤマハ名古屋 ホール (名古屋市中区錦)
ヤマハミュージック名古屋店リニューアルオープン記念コンサート
中川朋子ピアノリサイタル

プログラム

モーツァルト：ロンドニ長調 K. 485

シューベルト：即興曲集 D. 935 作品 142

メンデルスゾーン：ロンド・カプリチオーソ ホ長調 作品 14

ドビュッシー：月の光

リスト：「愛の夢」第3番

ドビュッシー：映像第2集

1. 葉ずえを渡る鐘

2. 荒れた寺にかかる月

3. 金色の魚

リスト：メフィストワルツ第1番

プログラムは、リニューアルオープン記念のコンサートとして、一般的に親しみやすい曲目や、学生時代に一度は勉強すると思われる作品を選曲した。

当日は、多くの皆様にご来場頂き、緊張の中にもプログラムを進める事が出来た。お客様に楽しんで頂く事が出来、好評を頂いた事は有難く、今後の糧としたい。

2017年7月17日(月) 場所：新庄市民文化会館小ホール

第18回山形県ジュニアピアノコンクール予選の審査員を務めた

主催：山形県ジュニアピアノコンクール実行委員会

審査員長・有森博氏

審査員・浅野純子氏、植木由利子氏、佐藤博幸氏、渋谷りり子氏、庄子みどり氏、鈴木美奈子氏、田中美千子氏、田原さえ氏、中川賢一氏、中野孝紀、松本裕子氏、松山裕美子氏、

中川朋子

6地区の予選を経て9月2日、3日に山形市中央公民館ホールで本選が開催された。私は、最上地区予選の審査を担当した。音楽振興の為の、地域のご尽力ご協力に感謝。

2017年10月20日（金） 開演：13:30 場所：宗次ホール（名古屋市中区栄）

スイーツタイムコンサート アンパロ・ラクルス チェロコンサート

出演 チェロ：アンパロ・ラクルス氏 ピアノ：中川朋子

プログラム

カタロニア民謡（カザルス編）：鳥の歌

カサド・セレナーデ／親愛なる言葉

グラナドス（カサド編）・「ゴイエスカス」より間奏曲

カザルス・パストラル／夢

小櫻秀樹・しあわせの夢 新作初演

小林聡・チェロのための「カタロニアの歌による変容」新作初演 チェロソロ

ラフマニノフ：チェロソナタ ト短調 作品19

I. レント-アレグロ・モデラート

II. アレグロ・スケルツァンド

III. アンダンテ

IV. アレグロ・モツ

スペイン・バルセロナのリセウ音楽院教授アンパロ・ラクルス氏と初の共演。アンパロ・ラクルス氏のチェロの重厚な美しい響きが、カタロニア地方の風情を思い起こさせ、スペインの音楽に一層魅力を感じながら共演させて頂く事が出来た。小櫻秀樹氏の新作「しあわせの夢」は、今回が初演。直前の来名で合わせの時間が取れない不安があったが、アンパロ・ラクルス氏と息の合った演奏が出来、小櫻秀樹氏からも喜んで頂けた。

ラフマニノフのチェロソナタ ト短調は、アンパロ・ラクルス氏のチェロの響きを楽しみながら演奏させて頂き、大曲であるにも拘わらず、今回は、全楽章が短く感じられる程であった。

2017年10月26日（木） 開演：19:00 場所：熱田文化小劇場（名古屋市中区熱田）

作曲・音楽クリエーションコース×ピアノ演奏家コース

Collaboration Concert

出演者：ピアノ演奏家コース（植田結衣氏、丹羽穂乃佳氏、杉浦僚馬氏、鈴木聡太氏）

大岡訓子氏、中井恒仁氏、中川朋子

プログラム

アム・セチュン・トニー：表裏 MOBIL 鈴木聡太氏

ブラームス：4つの小品 OP. 119 植田結衣氏

松波匠太郎：ピアノのための3つの小品 大岡訓子氏

リスト：メフィストワルツ第1番 丹羽 穂乃佳氏

小櫻秀樹：Reine Liebe for piano solo 中川朋子

リスト：巡礼の年2年 イタリアより ペトラルカのソネット第104番ダンテを読んで

杉浦僚馬氏

高橋裕：宙の風 中井恒仁氏

今回のコンサートは、名古屋音楽大学のピアノ演奏家コースの学生達の演奏と「作曲・音楽クリエーションコース」の教員の作品を「ピアノ演奏家コース」の教員が演奏するという記念演奏会。私は、美しいシューマンのモチーフが取り入れられている小櫻秀樹氏の、「Reine Liebe for piano solo」を演奏させて頂いた。現代曲の幅広い表現の無限性と共に、クラシック音楽の魅力を再認識した演奏会であった。

2017 年度 研究報告

■ 橋本 真介

研究テーマ

クラリネットやサクソフォーンの発音体であるシングルリードの長期間の活用

クラリネットやサクソフォーンの発音体であるシングルリードは高価であるが消耗品であるために常に奏者の悩みどころである。

1 箱 10 枚入り(約 3500 円)のリードは葦という植物でできているため個体差がある。

10 枚全て使えるわけではなくそのうち 2,3 枚が質・カット・バランスが適していて安定して使用できる。このいい状態のリードでもいい音色で演奏できる期間は良くもって 2 週間(毎日 1 時間吹いて)ほどである。また後の残り 7, 8 枚の使えないリードを調整し長期間使用できるようになればプロ・音大生・中高生・アマチュア愛好家と全てのシングルリード奏者が救われるであろう。

まずリードの変化(収縮や反り)こそがリードの消耗を早める原因だといえる。

そのリードの調整方法は油をリードの※維管束に染み込ませ固めリード全体を変化のないものにするのである。バランスの悪いリードは紙やすりやナイフで整えてから同じことを行う。染み込ませる方法としては油を付けた綿棒で表面裏面に乾いては塗ることを 3 回ほど繰り返す。この染み込ませる液体は植物油など人体に影響のないもので速性の強いものを選ぶ。

いずれリードは固形化し使用していても平常のリードよりは収縮や反りの軽減により長期間使用可能となる。維管束という空間を埋めることによりリード本体の密度の高さが高まりより倍音を多く含むリードができる。完成されたリードはプラスチックの様な状態で安定し、尚且つリードの消耗が軽減されると判断した。

研究材料

オイル

リンシードオイル・ココナッツオイル・オリーブオイル・向日葵油・クルミ油

リード

ダダリオ製 レゼルヴクラシック 3 番 3.5 番 4 番

ヴァンドーレン製 トラディショナル 3 番 3 半番 4 番

ヴァンドーレン製 V12 3 番 3.5 番 4 番

シルバースタイン ALTE 3 番 3.5 番 4 番

※植物が持つ内部組織の 1 つで植物体の全体に亘ってその内部を貫いており役割としては主に水や養分の運搬の為の管のこと

演奏活動報告

■ 松下 雅人

○アーク栄サロンホール主催コンサートシリーズ

松下雅人×鬼頭愛 デュオコンサート

日時：2017年3月22日（水）開演 18:30

会場：アーク栄サロンホール

出演者：松下雅人（バス）、鬼頭愛（ソプラノ）、沢崎央子（ピアノ）

◎ソロ

- ・ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より「エーデルワイス」
リチャード・ロジャース
編曲／大石有美
- ・ミュージカル「南太平洋」より「魅惑の宵」
リチャード・ロジャース
- ・ともしび
ロシア民謡
- ・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」より「セレナータ」
モーツァルト

◎デュエット

- ・ウィーンわが夢の街
ジーツィンスキー
- ・歌曲集「ミネネの歌」より「私はあなたの樹」
シューマン
- ・ジングシュピール「賢者の石」より「さあ、愛しい僕の奥さん」
モーツァルト
- ・オペラ「魔笛」より「恋の痛みを知る人は」
モーツァルト
- ・オペラ「フィガロの結婚」より「ひどいぞ！なぜ今まで長いこと」
モーツァルト
- ・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」より「お手をどうぞ」
モーツァルト
(Pf. 沢崎央子)

○第47期 コンセルヴァトーリオ名古屋二期会 バーゼコース修了オペラ公演

W.A.モーツァルト作曲 歌劇「フィガロの結婚」（原語上演・日本語字幕付）

日時：2017年4月8日（土）開演 17:30

会場：名古屋市東文化小劇場

出演者：佐藤正浩（指揮）、岩田達宗（演出）、服部容子（コレペティトウア）、

コンセルヴァトリーオ名古屋二期会バーゼコース研修生 他

配役：バルトロ（全幕）

○稲葉地オペラ振興会 オーケストラ公演 稲葉地オペラオーケストラ 第3回演奏会

日時：2017年9月1日（金）開演 18:30

会場：熱田文化小劇場

出演曲目：W.A.モーツァルト作曲 オペラ「魔笛」ハイライト（演奏会形式）

配役：ザラストロ（全幕）

○芦屋 Pour Toujours sweets オープニングレセプションパーティー ガラコンサート

日時：2017年9月19日（火）18:00～

会場：ラ・フェットひらまつ

出演者：松下雅人（バス／プロデュース）、山本企佐子（ソプラノ）、溝越美詩（ソプラノ）、北野友梨（ピアノ）、山川大樹（バス）

◎プログラム

- ・ 献呈 R.シュトラウス
- ・ ともしび ロシア民謡
- ・ オペラ『ポーギーとベス』より「ベス、お前は俺の女だ」 ガーシュウィン
- ・ オペレッタ『メリー・ウィドウ』より「唇を閉ざしていても」 レハール

○モーツァルト室内管弦楽団 第180回定期演奏会 モーツァルト《魔笛》K.620 全曲

（準オペラ形式原語上演・日本語台詞・日本語字幕付）

日時：2018年1月14日（日）15:00 開演

会場：いずみホール

配役：ザラストロ（全幕）

今年度はオペラ公演以外にも、デュオコンサートや知人のパーティーでの演奏など様々な形で活動した。多くの方と共演し貴重な体験ができ、充実した一年になった。

2017年 演奏業績ならびに研究業績

森 雅史

・2017年1月29日（再放送2月3日）

NHK FM『リサイタル・ノヴァ』出演（伴奏：岩渕慶子）

収録場所：NHK名古屋放送局 スタジオ

演奏曲目：ロッシーニ作曲 オペラ『アルジェのイタリア女』より “イタリアの女たち”
 モンテヴェルディ作曲 オペラ『ポッペアの戴冠』より “悲観に暮れた女がここに”
 モーツァルト作曲 オペラ『ドン・ジョヴァンニ』より “カタログの歌”
 チャイコフスキー作曲 オペラ『エウゲニー・オネーギン』より “恋はいくつになっても”
 フレンニコフ作曲 歌曲 “酔っ払いの歌”

※パーソナリティである本田聖嗣氏との対談を交えて放送された。

・2017年2月25日

新国立劇場オペラ研修所修了公演 モーツァルト作曲 オペラ『コシ・ファン・トゥッテ』
 鑑賞

会場：新国立劇場中劇場

※自身も所属していた新国立劇場オペラ研修所修了公演を観劇。我が国唯一の国立のオペラ歌手養成機関による公演だったが演出、楽曲解釈共に大変興味深いものであった。同歌劇場本公演制作担当者とも対談ができ、歌劇場の運営、キャスティングについて議論することが出来た。高い水準のオペラ公演を実現するうえで、新国立劇場だけでなく世界の歌劇場で実際に取り入れられている体制作り、組織作りを大学の授業にどう効率よく置き換えることができるかが今後の課題と認識した。

・2017年5月7日

三河市民オペラ ヴェルディ作曲 オペラ『イル・トロヴァトーレ』出演（フェッランド役）
 指揮：園田隆一郎 演出：高橋未朝 会場：アイプラザ豊橋

※主役を国際的に、もしくは東京を拠点に活躍する若手で優秀な歌手をオーディションで決めたこのプロダクションは、雑誌「音楽の友」などで評論家が口を揃えて評しているように、これまでの市民オペラのレベルをはるかに超えた高い水準のものとなった。作品自

体も優秀な歌手が揃わなければ成立しない難しい作品で、日本人キャストだけで高水準の公演が打てることを証明したこの公演は、日本のイタリアオペラ上演史の中で大変重要な意味を持つものになったと言える。個人的には愛知県内での初めてのオペラのプロダクション出演だったことがとても意義深く、また年齢の近い旧知のソリストたちとの共演は大変良い刺激になった。

・2017年6月4日

富山県高岡市「熱中寺子屋（国宝瑞龍寺を会場に一般の方を対象にした生涯教育の一環としての学びの場）」にて、“ヨーロッパでのオペラ歌手としての生活”と題した講義とミニ・コンサートを50名を対象に行う。

・2017年6月24日

イタリア・パレルモ・マッシモ歌劇場引っ越し公演 ヴェルディ作曲オペラ『椿姫』鑑賞
会場：びわ湖ホール

※主役ヴィオレッタ役を歌う友人のイタリア人ソプラノ、デジレ・ランカトーレに招待してもらい椿姫を鑑賞。今回の来日に際して、獲得した科研費研究題材に関しての助言や情報を得るために個人的に議論を重ねることが出来た。舞台裏では往年の名バリトン歌手レオ・ヌッチ氏からも貴重な話を聞くことが叶った。イタリアの実力と伝統を保つ地方劇場各々が持つ伝統的な作品解釈などの違いについて舞台を鑑賞しながら具体的に確認ができたことは研究上非常に有意義だった。

・2017年7月1日

新国立劇場オペラ研修所 ガッツァニーガ作曲 オペラ『ドン・ジョヴァンニ』鑑賞
会場：新国立劇場小劇場

※自身も所属していた新国立劇場オペラ研修所公演を観劇。昨年度より本学声楽コース公開講座で指導をお願いしている新国立劇場オペラ研修所音楽監督である河原忠之先生が指揮をされた公演。モーツァルトが随分演出的にも音楽的にも参考にしたことが良くわかった。同じ原作の数あるオペラ作品研究からモーツァルトのドン・ジョヴァンニをアナライズすることも面白いと感じた。来場していた研修所OBで現在活躍しているオペラ歌手、同研修所や東京の音楽大学、芸術大学で指導されているコレペティトゥアの先生方から貴重な話を聞く機会にもなった。

・2017年7月22日

佐渡裕プロデュースオペラ モーツァルト作曲 オペラ『フィガロの結婚』鑑賞

※これまで自身も出演しているプロダクションで、昨年度より本学声楽コース公開講座を

お願いしているメゾ・ソプラノ歌手、清水華澄先生が出演されている公演。佐渡裕氏のモーツァルト解釈や出演している友人歌手たちの歌唱から大いに刺激を受けた。佐渡マエストロとも終演後モーツァルト解釈について話を聞くことができた。

・2017年7月29日、30日

PMF ヴォーカル・アカデミー マスタークラス（指導：ガブリエッラ・トゥッチ）ならびにガラ・コンサートの鑑賞

※自身が20歳から師事している往年の名ソプラノ歌手ガブリエッラ・トゥッチ女史が3年前からPMF ヴォーカル・アカデミーにて指導に来られているので毎年、見学に訪れている。マスタークラスの受講生はオーディションで世界各地から4名選ばれる。アメリカ、フィリピン、韓国、日本から今回は選出された。トゥッチ女史からは、科研費研究題材に関して、ロマン派歌唱旋律解釈などの意見やカラヤン、クライバー、ムーティ、アバード、ガヴァツツェーニ、パタネ、エレデやシエピ、ギャウロフを始め共演した指揮者、歌手たちの音楽解釈、歌唱解釈についていろいろと話を伺うことができた。

また、マスタークラスを見て、ヨーロッパでは伝統的に当たり前となっているが、歌唱指導に関して、歌手による実技指導とコレペティによる音楽、様式指導の分業制は是非日本でも取り入れるべきだと痛感させられた。

・2017年8月10日

NOIEM-The Operatic Night vol.3-出演

会場：ザ・コンサートホール 名古屋・伏見・電気文化会館

※名古屋音楽大学声楽コース教員で結成された声楽研究団体による、オペラのアリアと重唱でプログラムを構成した第三回目の公演。大幸財団より助成を受け、日ごろの指導内容と研究成果の発表の場としての公演だけでなく、名古屋市における歌唱芸術文化振興に重きを置いた公演となった。当団体の認知度も上がり、新国立劇場オペラ研修所コレペティトゥアの岩渕慶子女史を伴奏と音楽指導に迎え、芸術性は高いが難易度の高さから演奏の機会に恵まれないかつての人気作品を多く取り上げ、観客にその素晴らしさを伝える研究団体としての役目を果たす内容になったと思う。

・2017年8月26日、27日（2公演）

オペラ『セヴィリアの理髪師の結婚』出演（バジリオ訳）

会場：東京 イタリア文化会館アニュッリホール

※東京二期会所属の現役スター歌手達を中心に演じられた、モーツァルト作曲『フィガロの結婚』とロッシーニ作曲『セヴィリアの理髪師』をひとつの作品にまとめた舞台。演出

は本学客員教授の田尾下哲氏であり、新しいオペラ上演の在り方を提示しており、2年前の公演が好評だったため再演となった。ポーマルシェの台本研究の側面からも大変意義深い公演になったと思う。

・2017年9月2日～9月14日

科研費研究目的の為、イタリア研修。

※科研費獲得に伴う、研究資料収集やフィールドワークを目的とした渡伊。

ミラノを中心に滞在し、スカラ座では研修所公演『ヘンゼルとグレーテル』やプラシド・ドミンゴ主演ヘンデル作曲『タメルラーノ』を観劇する。両公演に役者として出演していたセルジョ・パラディーノ氏とは共演を経て旧知の仲であり、彼からスカラ座、ローマ歌劇場の最近の舞台製作や芝居表現について詳しく話を聞くことが出来た。また、ベルガモ・ドニゼッティ博物館、ボローニャ・音楽博物館、ボローニャ・鍵盤楽器博物館なども見学し、同時に資料を多く入手した。一番の収穫はミラノにおける古楽譜販売店ならびにボローニャ・オルフェウスで、科研費研究内容で探し求めていた絶版となっている様々な出版物を入手できたことであり、イタリアでは近年個人経営の出版社が相次いで倒産していることから文化的、芸術的価値の高い出版物が入手できなくなっており、それらの文献を翻訳、精査し、日本人に理解しやすく咀嚼した形で伝えられたらと思う。ポナルド・ジャイオッティ氏をはじめイタリア留学時代に師事していた方々に声を聞いていただく機会にも恵まれた。

また、ボローニャではアンナ・マリア・サツラやダリオ・トンデッリ、マリア・アンジェラ・シチリアなど現役の歌手やコレペティトゥアたちと現在のイタリアオペラ業界について意見交換を行った。

・2017年9月17日

ソプラノ歌手中嶋彰子女史監修 農楽塾公演『オペラハイライト Vol. 3』出演。

会場:群馬県館林市三の丸芸術ホール

※日本を代表するソプラノ中嶋彰子さんが監督するオペラ団体農楽塾公演に出演。カンツォーネやドン・ジョヴァンニやボエームに代表されるオペラのアリア、重唱を歌う。オーケストラの指揮はダニエル・リントン氏で、イタリア語が堪能な彼とオペラ作品における旋律解釈について議論を重ねることが出来、大変有意義だった。

・2017年10月15日

全国共同制作オペラ『トスカ』新潟公演 (アンジェロッティ役)

会場:新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ コンサートホール

指揮:大勝秀也 演出:河瀬直美

・2017年10月27日、10月29日(二回公演)

全国共同制作オペラ『トスカ』東京公演(アンジェロッティ役)

会場:東京芸術劇場コンサートホール

指揮:広上淳一 演出:河瀬直美

・2017年11月8日

全国共同制作オペラ『トスカ』金沢公演(アンジェロッティ役)

会場:金沢歌劇座

指揮:広上淳一 演出:河瀬直美

・2017年11月12日

全国共同制作オペラ『トスカ』富山県魚津公演(アンジェロッティ役)

会場:新川文化ホール コン서트ホール

指揮:大勝秀也 演出:河瀬直美

・2017年12月7日

全国共同制作オペラ『トスカ』沖縄公演(アンジェロッティ役)

会場:沖縄コンベンションセンター

指揮:大勝秀也 演出:河瀬直美

※全国共同制作オペラには、野田秀樹氏演出、井上道義氏指揮のオペラ『フィガロの結婚』以来の出演。今回はカンヌ映画祭で大賞を受賞した女性映画監督河瀬直美さんが初めてオペラを演出するということでメディアも含め大きな話題を呼んだ公演である。河瀬さんは映画と同じ手法をオペラの制作現場にも持ち込んだため大変興味深い舞台となった。トスカとカヴァラドッシは海外から招聘した歌手だったが、舞台を古代日本におきかえ映像を駆使した舞台は大変わかりやすく、オペラの敷居を高く感じている地方の音楽ファンへの誤解を取り去ることを目的とした舞台芸術振興を目的としている全国共同制作の趣旨にも沿ったものとなっていたと思う。同時にオペラファンにとっても好みは分かれるにせよ、一石を投じる演出になったことと思う。河瀬直美さんとは個人的に演技論について意見を交わす機会もいただき、東京映画祭にもご招待いただくなど、音楽家としてだけでは無く、役者としても舞台人としても大きな影響を受ける貴重な経験をさせていただいた。また会場によって、合唱団、オーケストラも違うため多くの苦労を強いられることにはなったが、

今後の日本における地方でのオペラ上演の形としては理想的な公演形式だったようにも思う。オペラが専門の業界の人間だけの手によって創造されるのではなく、映画界のように他のエンターテインメントの分野で国際的に認められて活躍している人間の手に委ねたり、コラボレーションをすることは、観客の幅を広げたり好奇心を得られるだけでなく、双方向で観客の行き来が生まれる可能性が生じ、とても興味深い企画だと感じた。こうした異色のコラボレーションが持つ力や可能性を是非、自主公演の場にも持ち込みたいとも思った。